

《巻頭言》

科学分析支援センターと社会連携

研究機構長 佐藤 勇一

今年度は第2期中期目標期間の最終年にあたります。埼玉大学が平成25年から進めております「学部
の枠を越えた再編・連携による大学改革～ミッションの再定義に基づく研究力と人材育成の強化～」の柱
は、埼玉大学の研究力強化、人材育成強化です。研究力強化では、理工学研究科に戦略的研究部門
を設置して研究を推進してきております。さらに、昨年度から URA オフィスを置き、研究支援にも取り組ん
できております。来年度からの第3期中期目標期間に向け、計画を策定しております。特に、埼玉大学の
おかれた状況を考えますと、今後地域社会との様々な連携は必須と言えます。

昨年度から埼玉県との包括協定に基づき新エネルギー分野、先端ロボット分野、ライフサイエンス分野
の3つの分野で先端産業創造プロジェクトを進めております。さらに、このプロジェクトをはじめ地域とのよ
り緊密な産学官連携を進めようとしております。

科学分析支援センターは、地域からの依頼分析にも応えるなどの活動を行ってきて頂いております。ま
た、センターは学内の特に、理工系の学部、理工学研究科の教育および研究を行う際に大きなご支援を
頂いてきております。現在進めております大学改革の研究力強化に対しても、その役割が大きいことは言
うまでもありません。昨今叫ばれております地域創生に大学としても寄与するためには、地域社会の企業、
他大学、研究機関の期待に応えることが出来るように様々な活動を進める必要があると考えております。
したがって、科学分析支援センターの活動を今後も継続的に維持発展して頂くことは、大学の将来にとつ
て重要と考えております。

センター長を初めとするセンター教職員の皆様のこれまでのご尽力に感謝申し上げますと同時に、埼玉
大学の置かれた状況の御理解と、更なる御支援を賜りたいと考えております。最後に、センター創立
以来科学分析支援センターの運営に関係してこられた教職員の皆様の、ご尽力に感謝し、引き続き一層
の御力添えをお願い申し上げます。